

東京片貝会報

発行所
東京片貝会
港区芝公園2-11-4
電話03(488) 5925

五十一年の新年を迎えて

会員の皆様には、めでたく新春を迎えられたこととお喜び申しあげます。

昨年は不馴れな私達にも拘らず心温まるご支援をいただき、大過なく越年できましたことを感謝しております。本年もいつそうのお力添えをお願い申しあげます。

今年は何年、立ちあがる年にしたいものです。会としていろいろな企画はたてておりますが、まず年頭の目標として、手近なところから、「総会には一人でも多く出ていただき、互いの親睦を深めよう」と念願しています。

本日ご出席いただいた皆様にお願いいたします。この会をまだよく知らない方、いろいろの都合で出席できずにおられる方々に、総会出

総合予告

六月の日曜日を考えています。いずれ春になつてから、各年次代

席をぜひ呼びかけていただきたいのです。

それには会そのものが、楽しく魅力あるものでなければなりません。深くこのことを肝に銘じて努力をしたいと思えます。

私たちは、孫呉空が仏様の草から抜け出すことができないのです。体はどこにあつても、いつも片貝は私達のそばにあります。そこには安らぎがあります。皆さんと今年も手を取りあつて、意義ある年にしたと、念じております。

東京片貝会 役員一同

表、連絡員の方々にお願いいたして、具体的な計画をたてます。全員に案内を出したいが、手数や経費の壁があり、いま考慮中です

新しい会員名簿を作ろう

会は今までに名簿整理に鋭意つとめてきましたが、現在判っているだけで、千数百名の多数にのぼっています。総会開催までに、新名簿を印刷、完成を期しています。調査や原稿整理など、これか

若い人を励ます会

名簿資料を、片貝中学校にお願している。地味でまことに困難な作業であるが、ぜひ実現したい。

千谷たけし君頑張れ

新進歌手が賛助出演

千谷君(本名大塚武)は三の丁の出身で、昨春歌謡界にデビューして以来、特に関西方面で、着々と歌手としての力量を堅めつつあるという。

きようは多忙の中を、神戸から郷土の皆様にあいきつ旁々、出演することを快諾された。近く二枚目のレコード「信濃川慕情」が発売されるとか。本日はサイン会を催します。又レコードも頒布の予定です。同氏激励の心をこめて、ご協力ください。



からも多くの労力が予想されます。皆さまのご助力を切望いたします。経費も相当額(約二十万円)に上る見込みですので、広告や芳志などお願ひ申したく、これからの胸突き八丁です。

会員便り



おかげ様で私達夫婦ともどうやら自活可能な健康を保たれて喜んでおります。たといインフレ下とはいえ、豊かな生活の出来る明るい世直しに期待をかけ、希望を持つようではありませんか。

(大正2年卒 安達市郎)

いま丸の内の公認会計士事務所で税理士として、毎日多忙の日々を送っています。片貝会の発展のために、お役に立てるならまことに幸いです。

(昭和32年卒 諸我時夫)

先日はご丁寧な片貝会のお知らせ、ありがとうございます。会員の末席に加えていただきましたと思います。

(昭和8年卒 佐藤彦一)

謹賀新年

ともかくも一家安泰 松活けて孫抱いてちびりちびりと俺が春(昭和2年卒 相崎勇次)

去る八月、四十年間お世話になった鎌倉を離れまして、故郷の初春を老妻と二人、元気に迎えさせていただきます感謝しています。

郷里に帰り、秋の茸狩り、念願の郷土史の勉強、古いわが家の系譜の発掘と、温かく迎えてくれた旧知やときたま訪ねてくれる子や孫達と楽しく過ごす、これが何よりの幸せと喜んでおります。

(大正13年卒 深井幸三郎)

片貝会報に私の店を広告に載せていただいたところ、私の実家(8の丁鍛冶や)の右隣の鈴木歯科医のお嬢様から、何十年ぶりでお電話をいただきました。突然のことで、その喜びもひとしおでした。会の発展を切にお祈り申しあげお礼にかえさせていただきます。

(昭和8年卒 中溝フジ)

新年におもう(佐藤)

郷里の歴史と現状をもっと知ろう。知ることで愛情が深まる。回廊趣味に安住することなく、若い人にも魅力ある会にしたい。連絡、通信は会を運営する動脈だ。郵便料の値上げが痛い。

叙勲に輝く

武見 太郎 先生

(特別会員)

先生のお母様は4の丁新野家である。幼少の頃、母に連れられて片貝に來られた話は、一昨年の総会に先生が出席下さった際、伺ったことである。

このたび最高の栄誉である勲一等旭日大綬章を受けられたので、会として佐藤



相ほか名士多数が出席して行われた。(上の写真は広井三代次氏提供)

広井、安達(宗)の三名で、国鉄ストの最中、郷里の銘菓衣がやと袖羊かんを持ってお祝いに参上した。

受賞は十一月十二日、三木首相立ち合いのもとで、天皇陛下より勲章を賜った先生は官中から退出されると、杉並区堀の内妙法寺にあるお母様の墓前に直行され、生ける母に報告する如く、きょうの栄誉を告げられたという。

なお、祝賀会は帝国ホテルで、三木首相ほか名士多数が出席して行われた。

黄綬褒章に映える

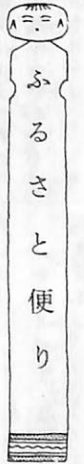
前会長 安達 竜 作 氏



本会の育ての親ともいへべき安達竜作氏は一の丁島屋の方(大6卒)。会が今のような盛会を見るに至ったのは、偏に氏の努力によるものである。

氏は長年化学工業技術界に尽した功により、49年11月26日官中に参内して、科学技術長官より褒章を受けられた。

安達さんは電機学校を卒業後、いったん帰京したが再び上京。以来、工業技術のジャーナリズム関係の仕事を一貫してやられた。月刊誌「日本化学工業」を発行して、わが国が将来工業国として発展すべきことを強調。法案改正運動、研究会など、暁日がなかった。また工業技術家の伝記を数多く著作され、この功績も高く評価されている。この栄誉は、安達さん自身は申すに及ばず、本会にとつても喜びに堪えませぬ(写真左が安達竜作氏)



簡易水道の設置計画

五十一年度から、片貝に簡易水道工事が始まるとうとしている。さしあたり、本年度から調査が開始されるという。実現されれば、水洗便所もできるだろうし、日常生活がいつそう快適になるわけだ。その日の到来が待たれる。

さいの神

一月十五日、片貝の賽の神は、テレビや新聞紙上に紹介されて、県下でも、人に知られる行事となつていく。

各町内毎で行われていたのを、浅原神社の境内で合同実施されるようになってから、もう十年も経過した。まず3時に餅まきをして景気をつけたあと、小、中、大と順番に賽の神に点火して、盛りあげてゆく。その間に、町内子ども会による「もつくらもち」行事がある。もつくらもち、どこいったうちにか、そこにか、おや

同級会の動き

〇十二同志会(大12年卒)

毎年秋に一泊旅行をしていけるが、去る十一月三日五回目の旅行をした。東京と片貝から高崎で落ち合い、伊香保温泉にいつて、汗を流してきた。秋晴れに恵まれ、楽しい二日間であった。

〇和進会(昭19年卒)

本日(一月二十五日)同級会を開催。盛会をお祈りいたします。

東京片貝会役員会

新年懇親会の計画その他を相談のため11月16日開いた。

あとがき

無我夢中でひき継いでから約一年、会の動きも漸く把握できるようになりました。マッネリにならず、絶えず新しい方向をきり開いてゆきたいと願っています。それにはぜひ若い世代の方々のご支援を願いたい。

つぎの会報では、各同級会の動きを紹介したいので、案内を出すときに、ぜひ会の方にもお知らせください。皆様のご多幸を祈ります。